

神戸臨港線

神戸臨港線は、かつて神戸市内に存在した東海道本線の貨物支線の通称で、2003（平成 15）年 12 月 1 日に全線が廃止された。現在はその跡地の一部が遊歩道として整備されている。本路線は、下記のとおり、神戸港の発展と共に敷設・拡張された。

- 1907（明治 40）年：東灘信号場から小野浜荷物取扱所（後の神戸港駅）間開業
- 1922（大正 11）年：神戸港に 4 本の突堤が完成し、小野浜駅から引き込み線が延長される
- 1924（大正 13）年：小野浜駅から神戸港駅まで延伸
- 1936（昭和 11）年：現在のハーバーランドまで延伸
- 2003（平成 15）年 11 月 30 日：全線廃止



図-1 神戸臨港線路線図

沿線には領事館やホテルが多かったため、汽笛ではなく鐘を鳴らして運行されていた。戦前は、大陸連絡列車やポート・トレインと呼ばれる、欧州航路の連絡列車も運行されていた。

神戸臨港線の廃線跡は、現在以下の通り活用されている。

遊歩道：国道 2 号線南側付近から旧神戸港までの跡地の一部は、遊歩道として整備された。桜並木が続き、市民の憩いの場となっている。

ミニ SL の線路：神戸市立科学技術高等学校付近には、同校の鉄道研究会が作製したミニ SL の線路が常設され、イベント時には試乗会が開催されている。

モニュメント：春日野道付近には線路がモニュメントとして残されている。このほか、灘駅南側付近の公園には、臨港線のレールと車止めがある。神戸港駅跡地のみなとのもり公園（神戸震災復興記念公園）には、神戸港駅のミニ

メントが設置されている。HAT ゆめ公園にも、神戸港駅構内に造られた煉瓦下水道が移設保存されている。

<みなとのもり公園内のモニュメント>

震災で止まった時計：阪神・淡路大震災が発生した午前 5 時 46 分で止まった時計がある。この時計は、かつて神戸港駅で使われていたものである。

安全の鐘：昭和 30 年代に 8620 型蒸気機関車（ハチロク）の先頭に付けられ、警笛の代わりに鳴らされていた。SL 引退後は駅で「安全の鐘」として事故防止に役立っていたそうだ。



写真- 1 調査記念写真（震災で止まった時計と安全の鐘の前にて）

参考文献：

- Wikipedia：神戸臨港線（路線図を引用）
<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%A5%9E%E6%88%B8%E8%87%A8%E6%B8%AF%E7%B7%9A>（2026.2.14 閲覧）
- 道谷 卓：神戸港の貨物拠点だった旧神戸港駅、「神戸歴史トリップ」
https://www.city.kobe.lg.jp/documents/45346/mb-10_koubekounokamotunokitennattakyuukoubekoueki.pdf（2026.2.14 閲覧）
- 神戸・兵庫の郷土史 Web 研究館：「国鉄・神戸港臨港線跡を辿る」
<https://kdskenkyu.saloon.jp/tale77rin.htm>（2026.2.14 閲覧）

文責：CVV会員 宇野 宏司, 2026年3月作成

【参考】神戸港線の変遷

M43年



T12



S10



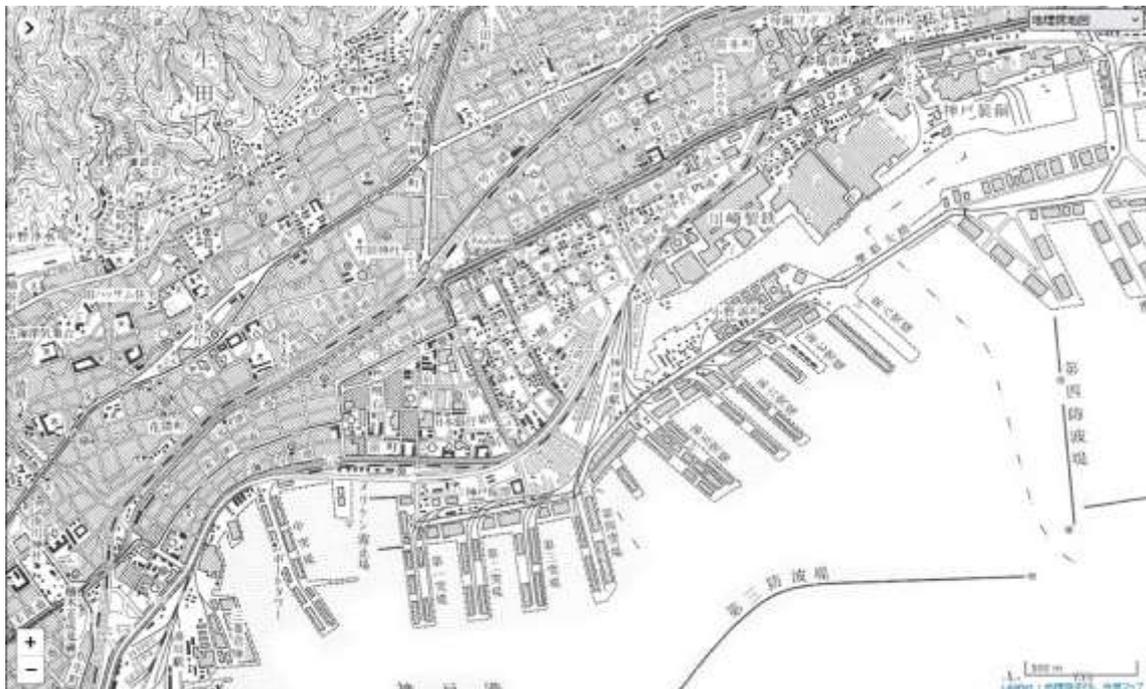
S22



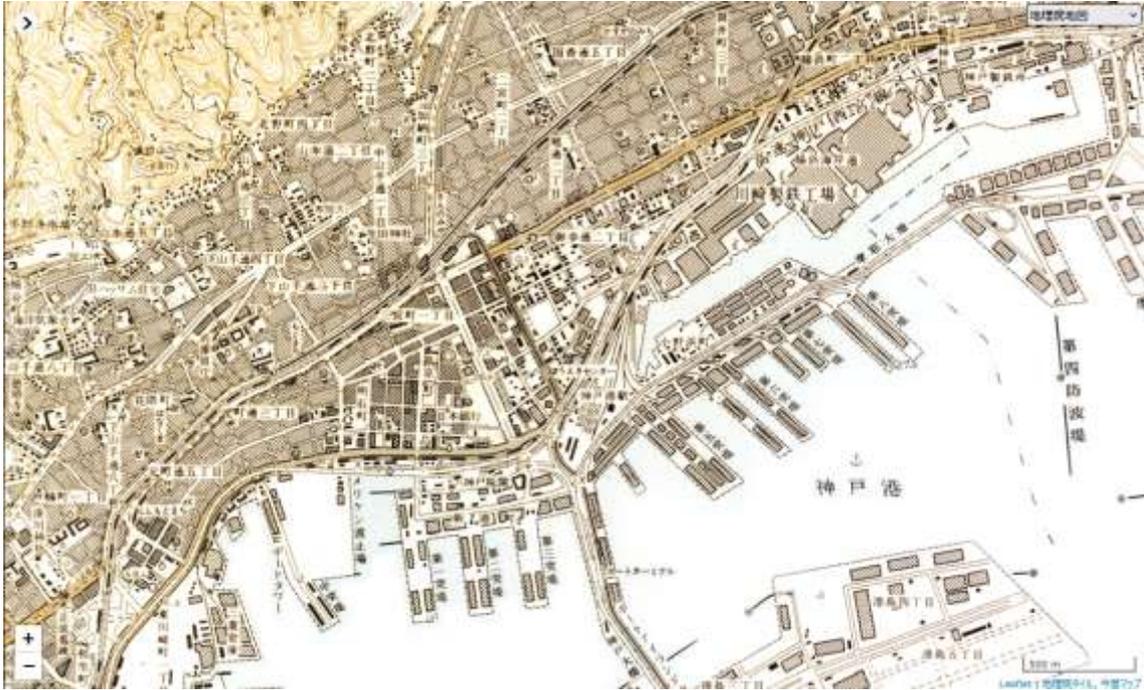
S42



S52



S60



H8



現在

